

今昔物語



市制 70 周年を迎えた行橋市。山や海に囲まれ、京築地域の中核として人が行き交い、歴史と文化が育まれてきました。昔懐かしい行橋の風景や町なみの、「今」と「昔」をご覧ください。

～ Vol.019 行橋の映画館

12 月 1 日は「映画の日」です。明治 29 年（1896）にエジソンが発明したキネトスコープ（初期の映画鑑賞装置）が初めて神戸で輸入上映されたことに由来し、日本における映画産業発祥（日本で初めての有料公開）を記念して、60 年後の昭和 31 年（1956）に定められたものです。

行橋で最初に映画（明治・大正時代は「活動写真」と呼ばれた）を上映したのは、大正時代に宮市町にあった「豊昇館」で、現在のハミング通り沿い、福岡中央銀行行橋支店の北側角地にありました。「豊昇館」は昭和 3 年（1928）に全焼しましたが、翌年その跡地に「旭館」が開館しました。

1929 年 / 昭和 4 年

■開館当時の旭館

戦後、大衆娯楽としての映画は全盛期を迎え、昭和 33 年（1958）の映画館の観客動員数は 11 億 3 千万人を数えました。当時の日本の人口は 9 千万人。統計上はすべての国民が毎月 1 回映画館に通っていたということになります。

行橋の全盛期は昭和 20 年代後半で、6 つの映画館がありました。魚町銀座商店街の「旭館」、その西には「豊昇館」を継ぐ「富士館」、駅前ビルの「名画座」、駅前通り（中央 3 丁目 1 番）には「祇園座（後の祇園東映→行橋東映）」、大正町（中央 3 丁目 7 番）の「行橋映劇（後の行橋日活）」、神田町（中央 3 丁目 9 番）には「京映館」がありました。



▲魚町銀座商店街（現・ハミング通り）にあった行橋では「豊昇館」に次ぐ映画館。昭和 39 年に閉館。その後は「ショッピングデパート相互」（平成 11 年閉店）となり、長年魚町商店街の中心として賑わった。

1957 年 / 昭和 32 年

■栄館前で

昭和 32 年（1957）には、西町の舟路川横、現在のえびす通り銀天街を抜け、美夜古通りとぶつかる角地（大橋 3 丁目 10 番）に「栄館（後の栄文化）」が開館。西町商店街の人たちが「映画館がないと買物客が集まらない」とつくられた映画館でした。しかしながら、家庭ではテレビが普及し、娯楽のあり方も多様化していき、行橋最後の映画館「栄館」は昭和 61 年（1986）に惜しまれつつ閉館しました。



▲開館間もない栄館前での記念写真。栄館の跡地は令和 6 年現在、駐車場となっている（下写真）



現在の映画館は、ショッピングモールなどに併設された複数のスクリーンをもつシネマコンプレックス（シネコン）が主流で、「昔ながらの映画館」は空前の灯火といえます。

残念ながら、行橋には「昔ながらの映画館」はなくなりましたが、地域には旦過市場の大火災より再建された「小倉昭和館」があり、こうした古きゆかしき景色を未来へと継承していくことも、今を生きる私たちの使命ではないでしょうか。